

▶事務局長からのご挨拶	時盛 昌幸	1
▶公益財団法人JKA 2018年度補助事業 完了報告		...	2
▶社会福祉法人丸紅基金 2018年度社会福祉助成 完了報告		...	2
▶年度別ご支援総額 / 2018年度決算報告		3
▶会費等報告 / 新任理事紹介 / CENTER NEWS		4

事務局長からのご挨拶

～ 2019 年度に向けて～

◆昨年度の総括

昨年度は、法人において最大規模の事業費を有する「メルクマールセタがや」のプロポーザル提案がございました。廣岡施設長を中心として、多くの職員の尽力により、今年度より5年間の委託契約を受託することができました。今期からは、廣岡施設長、菅原副施設長のあらたな体制で運営を行って参ります。これまでの4年間、施設長の任をお受けいただきました井利理事には、改めて感謝を申し上げたいと思います。

また昨年は、助成金と新規事業に恵まれた一年でもありました。主な助成金においては、「日本郵政年賀寄附金」にて367万9千円の助成を得、『オーブングアイアローグ・ワールド・カンファレンス』の開催、「社会福祉法人丸紅基金」より61万円の助成を得、電動自転車4台の購入ができました。その他公益財団法人JKAはじめ、複数の団体・個人様より総額1169万円のご寄付を頂戴いたしました。

加えて、新規事業として、「公認心理師現任者講習会」を実施し、多数のご参加を得ました。これらの実施に際し、中心的な役割を担った鈴木事務局長補佐の尽力をたたえたいと思います。

◆経営方針

本年は私が事務局長に就任して5年目をむかえます。私は就任時よりお示しして参りました、「経営と支援の分離」を目指した経営改善計画をさらに推し進め、昨年度の職員総会にて、次の3つの重点実施についてお示しいたしました。

- A：給与、労務、会計、各処理の効率的なフローの構築
- B：インターネット募金サイトなどのより効果的な活用によるファンドレイジング
- C：人材育成に重点を置いた評価制度の準備

現時点におけるこれらの到達度としては、次の通りです。Aについては、大幅な省力化を志向し、業務のアウトソーシングおよびバックオフィス機能の強化を行って参りました。たとえば2017年度までは、同一法人にもかかわらず、法人本部とメルクマールセタがやにおいて、

給与規定が異なるという問題がありました。2018年度より給与規定の統一、給与計算の一元化、会計処理の一元化を行い、各処理の改善を実施いたしました。今年度も引き続き継続し、さらなる業務効率化を目指し、支援業務により大きなリソースが投入できるよう、各事務作業の改善を行って参ります。

Bについては、寄付の受け皿強化を実施して参りました。しかし、事業に対するファンドレイジングの開始までは至りませんでした。本年は、ファンドレイジングに適した事業については積極的に企画立案を行います。さらに、本年は寄付に関する基本指針をお示しし、それに沿った形での機能的かつ機動性のある活動の充実を目指します。

Cについては、先行事例の検討にとどまりました。私どもは、職能・職務が異なる職員が同一の事業に関わる特殊な事業を展開しています。それゆえ、共通の評価軸の設定の難しさがあります。加えて、支援に携わる職員の評価はどのような視点によって行うことが可能なのか、そもそも支援の評価は質的であれ、量的であれ可能であるのかといった複数の論点について検討を行ってきました。本年は、評価制度の実施の可否を含めた、計画がお示しできるよう尽力して参ります。

◆おわりに

私が法人経営において意識していることは、事あるたびに申し上げているこの一言に尽きます。

「社会福祉事業における最大の利用者支援とは、支援の継続である」

ご利用者の支援を続けていくためには、何が必要なのだろうか？——皆さまお一人おひとりが、この答えの無い問いについて、「自分は何をすべきか」「どうすればよいのか」と考えることを続けていただきたいと思います。それこそが、私どもが支援を継続することにつながるのだと、私は確信しています。

引き続きまして、さらなるご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

公益財団法人JKA 2018年度補助事業 完了報告

この度、2018年度の公益財団法人JKAにおける競輪の補助を受けて、下記の事業を完了いたしましたので、ご報告申し上げます。

—— 事業名：引きこもり・不登校に対する支援活動に対する補助事業 ——

(1) 演劇活動・体験活動を用いた社会参加準備支援

【目的】演劇活動では発声練習や役を演じることにより、自分自身の対人コミュニケーションの特徴に気づく機会を増やし、体験活動を通して、様々な場面・関係性・活動から、自信・意欲を高め、将来行われるであろう、自立に向けてのレジリエンス（精神的回復力）を高める、就労・職場内での対人関係などを乗り越えられる地盤の形成を目的としています。

(2) 対話を重視した技法「オープンダイアログ」形式を用いた家族支援及び交流会

【目的】ひきこもり当事者のご家族様向けにオープンダイアログの支援技法を用いた家族支援・交流会を開催することにより、家族内での対話やコミュニケーションについて再考し、実際の家庭の中で活用できるようになることを目的としています。精神科医の斎藤環氏を中心に、原則毎月1回開催し、講義形式で行われる「理論編」と対話を中心とした「ワーク」を実施いたしました。

(3) 青少年自殺予防事業

【目的】日本の若者の自殺率は先進国内で見ても高い水準を維持しております。この背景にはうつ病等の精神疾患との関係性も多くあげられていますが、治療を受けていない方も多数おります。このような背景から青少年自殺予防事業として、平日は電話相談員が隔週土曜日に精神科医が電話相談業務に従事しております。

本事業に際し、ご理解ならびにご支援を賜りました公益財団法人JKA様には心よりお礼を申し上げます。誠にありがとうございました。また、皆さまにはひきつづき変わらぬご支援をいただけますようお願い申し上げます。



社会福祉法人丸紅基金 2018年度社会福祉助成 完了報告

2018年11月21日（水）、丸紅基金社会福祉助成に「訪問相談のための電動付自転車の購入」として採択いただきました。本助成に則り、訪問相談用の電動付自転車を計4台購入いたしました。

丸紅基金様のお話では「青少年問題に取り組む団体を採択するのは少ないですが、その中で選ばさせていただきました」と当法人の事業を高く評価いただきました。近年当法人で文京区、世田谷区、台東区の委託を受け、訪問相談の要請を多く受けるようになりました。特に訪問支援の拠点としている文京区、世田谷区では訪問先によっては交通網が不便である場所も多く、訪問手段が課題となっております。本助成を賜りましたことにより、課題であった手段が解消でき、当法人で実施している訪問活動によりいっそう力を注いでいくことが可能となりました。

この場を借りて、社会福祉法人丸紅基金様に改めてお礼申し上げますとともに、皆さまからの変わらずのご支援をお願い申し上げます。



たくさんのご支援ありがとうございます

年度別ご支援総額(2015～2018年度)

このたびは青少年健康センターの活動のため、尊いご寄付を賜りまして誠にありがとうございました。いつもあたたかいご支援に励まされております。ご厚意を心より感謝して有効に使わせていただきます。公益社団法人青少年健康センター 会長 齋藤友紀雄



2018年度決算報告

平成30年4月1日～平成31年3月31日

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 経常増減の部			
(1)経常利益			
1 基本財産運用益	0	1,091	△ 1,091
2 受取会費	740,000	620,000	120,000
3 受取補助金等	18,757,606	17,440,390	1,317,216
寄付金収入	11,698,606	11,149,390	549,216
補助金・助成金収入	7,059,000	6,291,000	768,000
4 事業収益	86,569,526	94,114,864	△ 7,545,338
公1 引きこもり不登校に対する自立支援事業	74,413,090	73,196,175	1,216,915
公2 社会参加支援プログラム開催事業	1,175,454	979,141	196,313
公3 思春期カウンセリング講座開催事業	375,000	173,000	202,000
公4 講演会・シンポジウム等の開催、普及啓発事業	10,605,982	19,756,548	△ 9,150,566
公5 青少年自殺予防事業	0	10,000	△ 10,000
5 その他の収益	584	183	401
経常収益計	106,067,716	112,176,528	△ 6,108,812
(2)経常費用			
1 事業費	99,207,184	97,913,986	1,293,198
公1 引きこもり不登校に対する自立支援事業	74,533,384	67,077,587	7,455,797
公2 社会参加支援プログラム開催事業	1,916,487	2,756,465	△ 839,978
公3 思春期カウンセリング講座開催事業	1,487,343	1,555,323	△ 67,980
公4 講演会・シンポジウム等の開催、普及啓発事業	16,096,425	21,330,883	△ 5,234,458
公5 青少年自殺予防事業	5,173,545	5,193,728	△ 20,183
2 管理費	9,479,466	13,990,581	△ 4,511,115
経常費用計	108,686,650	111,904,567	△ 3,217,917
当期経常増減額	△ 2,618,934	271,961	△ 2,890,895

会費・寄付金・助成金・補助金報告 (2019年4月～6月)

青少年健康センターは大勢の個人の方々のご献金、および団体・企業様の助成金、ご寄付、補助金などによって支えられています。ここに心から感謝申し上げます(敬称略)。

【正会員】	稲村 優子 岩佐 壽夫 菊池 章 日下 忠文 近藤 卓 齋藤 務 園田 章 高橋 清久 高山 智 西村 秋生 日高 正枝 福田喜代子 松岡太一郎 米沢 宏	計:	280,000円	
【維持会員】	榎本美津恵 生出 美穂 佐藤 悦子 佐藤 正吾 佐藤 正江 鈴木 邦一 鈴木 順子 徳江 逸子 戸村みどり 野上 清水 福山なおみ 藤井 忠幸 丸山 邦子 柳下 強 渡辺 彰子 匿名 1名	計:	140,000円	
【SW会員】	SW会費+維持会費 11名:	165,000円	SW会費のみ 57名:	570,000円
【寄付・個人】	石村 愛子 小倉 典子 梶原 達也 穴戸信次郎 神保 光代 竹内 律 西浦加代子 西村 四郎 原田 玲子 比留間知子 藤井 幸子 丸山 邦子 匿名 2名	計:	7,630,003円	
【農業プロジェクト寄付】	伊藤 猛 倉田 治美 栗田 和子 田中 千裕 西澤恵美子 西野せつ子 日高 正枝 宮崎 強 宮崎 郁子 山下 真一 山下千恵子 米沢 宏	計:	157,000円	
【助成金・補助金】	公益財団法人JKA 1,278,000円 日本たばこ産業株式会社 683,116円	計:	1,961,116円	

新任理事紹介 2019年6月15日に開催された定時総会にて、理事に就任された方々をご紹介します。



斎藤 環氏

筑波大学教授
爽風会佐々木病院診療部長
精神科医



島中 雅子氏

働けない子どものお金を考える会代表
ファイナンシャルプランナー(CFP)
FP技能士1級



伊藤 亜矢子氏

お茶の水女子大学准教授
放送大学大学院主任講師
学習院大学非常勤講師

CENTER NEWS

2019年度 (敬称略)

4月

- 朝霞台農園 農園作り開始 6日
- 茗荷谷クラブ フリーマーケット@赤羽公園 14日
- 茗荷谷クラブ
40代以上の居場所「よつば庵」開催 14日
- ひきこもりダイアログ講座 20日
講師: 斎藤 環 (精神科医) 於跡見学園女子大学
- 青少年健康センター職員総会開催
於シビックセンタースカイホール 20日
- クリニック絆 電話相談員研修 24日
講師: 藤堂 宗継 (臨床心理士)

5月

- ひきこもりダイアログ講座 19日
(講師 同前) 於筑波大学東京キャンパス
- 茗荷谷クラブ「女子会」開催 20日

- クリニック絆 電話相談員研修 21日
講師: 谷口 万稚 (米国臨床心理士)
- 基礎講座 前期 22日から5回
講師: 藤堂 宗継
- 茗荷谷クラブ 春旅行@勝浦 24～25日

6月

- 台東区若者育成支援推進事業
講演会・個別相談会開催 1日
講師: 倉光 洋平 (公認心理師) 於台東区役所
- 茗荷谷クラブ「親とスタッフの会」開催 9日
- 文京区主催ひきこもり講演会・個別相談会開催 15日
講師: 斎藤 環 於文京区民センター
- クリニック絆 電話相談員研修 18日 (講師 同前)
- 茗荷谷クラブ
ゲーム大会@株式会社デジタルハーツ 28日
- シンポジウム「ひきこもりとメディア～『容疑者はひきこもりでした』報道をめぐる～」に協力団体として参加 於筑波大学東京キャンパス 30日

発行・公益社団法人 青少年健康センター (会長 斎藤友紀雄)

〒112-0006 東京都文京区小日向 4-5-8 三軒町ビル 102 TEL:03-3947-7636 / FAX:03-3947-0766
http://www.sk-net.or.jp E-mail: info@sk-net.or.jp